明治三十二年十月二十日發行（明治二十一年二月二十八日内務省許可）

婦人衛生雜誌

第百拾九號

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百拾九號目次

講演

●習慣性脊柱彎曲症に就て（前の號續）……（一）
文部省學校衛生主事 醫學士 三島通良君
●食物の養分に就て……Dr. S. T.（七）

寄書

●生徒身躰檢査の結果に就て……U. O.（十七）

衛生叢談

●美人となる秘訣……（二十）
●皮膚養護法……（二十一）
●腸窒扶斯の看護法……（二十二）
●看護は嚴正の注意があり……（二十四）
●動物性食物と植物性食物……（二十六）
●男女兩性の分るゝ所以……（二十七）
●近時に於ける各國界女人口比較……（二十九）
●貝原益軒の童子訓……（二十九）
●箴言……（三十）

中外彙報

●小兒とサッカリン糖……（三十）
●東京府下の結婚と出產死亡……（三十一）
●日本體育會の披露會……（三十二）
●傳染病發生の時期……（三十四）
●ラムチ酢醬油の赤痢コレラ、腸チフスに於ける殺菌力……（三十四）
●八萬の赤痢患者……（三十六）
●菓子の分析檢査……（三十六）
●京都看護婦學校……（三十六）

近事談片

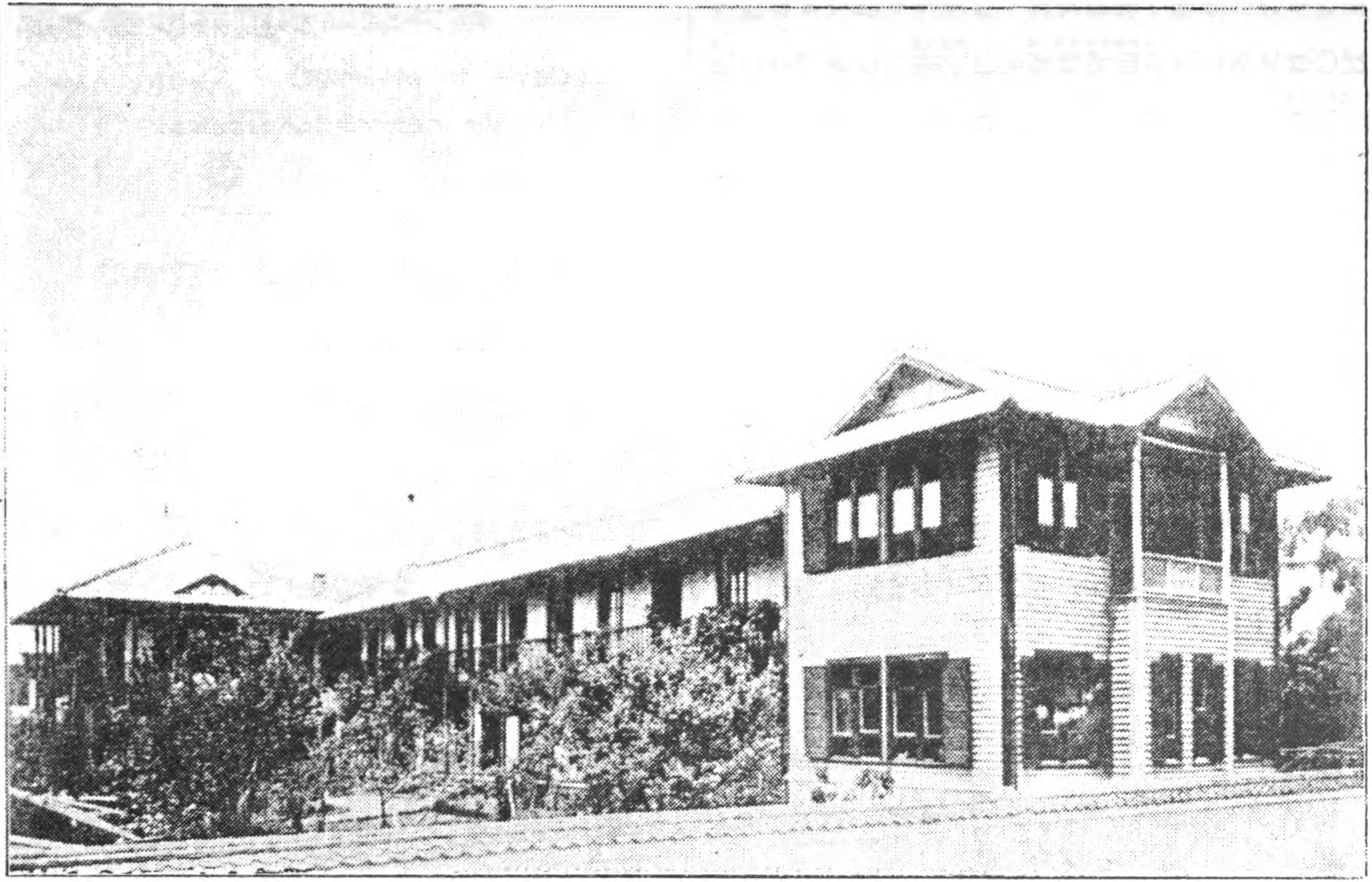
●飲食物取締●東京腦病院●淺草區内の猩紅熱●腸チフス流行の兆●香港黑死病●精神病看護法案●ペスト視察員●慈惠病院の近況●醫術開業試檢●臨時海港檢疫地●コレラ
●平和會議と病院船●生產と死亡●不老不死の術●赤痢と牝の牛兒●中毒の奇病●帝國聯醫會●赤痢未發生地●赤兒の吐糞●琉球の俚言●頭顱の解剖●名古屋市の中毒事件●腫物より縫針三本●牛莊の黑死病●死牛の肉中毒

養生淺說

●石鹼と炭酸曹達●火傷の手當●白なます●鹽水温浴●疥癬療法

大日本婦人衛生會記事

●第七十九次例會景況●會報數件●入會者及轉居者●弔詞●廣告數件



ドクトル佐伯理一郎氏の管理せる京都看病婦學校

婦人衛生雜誌第百拾九號
（明治三十二年十月二十日發行）

講演

●習慣性脊柱彎曲症（前號の續）

(Scoliosis habitualis)

文部省學校衞生主事 醫學士 三島通良君 述

次に當り前病理を説く順序から言ふと診斷法を説くべきであります、然るに脊柱彎曲の診斷の方法は、之を文章としても長いものでありませぬが、之を行ふに就ては餘ほど熟練を要することです。其方法の大要は拙著「生徒姿勢の枝折」の終に書て置きました。然るに此診斷方法を知らぬものと見えて、文部省で訓令して、學生生徒身體檢查規定と云ふものを出して、直轄諸學校の學生生徒の身體檢查をするやうになッて居りますが、其文部省へ報告したものを見ても、どこの學校にも脊柱彎曲のところには○ばかり付て居るのが多い、併し私の鑑定には、直轄の諸學校にも、彎曲がこんなに少い筈はない、或は檢查の仕方が、悪いのではないかと思ひます、若し少し此學問をした人が檢查すればモ少し多からうと思ひます。此等の報告に彎曲の無のは無のではなくめッからないのであらうと思ひます。夫れ故に學校醫は殊に脊柱彎曲を診斷する方法を練習しなければなりませぬ。外國の報告を見ても同じやうな情況である到底脊柱彎曲の少ないやうに云ふのは、之を視るの明が無いのである、それであるからめッからぬのである、能く詮索して見たら、決して少なからぬものであらう。其方法の如きは書物に記して置たから詳しく述べませぬが、兎に角脊柱彎曲は少ないものではない、と云ふことを御話をします。一昨年高等

師範學校と東京工業學校との、入學試驗をしたときに檢査したら、百人の中五十七人七分は彎曲したものがある、それから尙ほ去年になりましてから少し詳しく調べやうと思ッて、工業學校の入學試驗の時分に於て調べて見ました所が左の表の通りでありました。

東京工業學校入學志願者脊柱屈彎統計表

明治三十一年六月調査

別類	人員	百分比例
總人員		三五七
脊柱彎曲 右方 一度	一二	三、四
脊柱彎曲 右方 二度	二二	六、二
脊柱彎曲 右方 三度	三六	一〇、一
脊柱彎曲 左方 一度	九	二、五
脊柱彎曲 左方 二度	八	二、三
脊柱彎曲 左方 三度	一二	三、四
合計	九九	二七、七
脊柱後屈曲（輕反）	一	〇、三
總計	一〇〇	二八、〇

此分は割合に少ない、併し女子には多いと云ふ所から、女子の方を調べやうと思ひました、京都の高等女學校の校長は、非常に學校衛生のことに注意する人で、數年前から彎曲の調もして、年々報告して居ります。即ち京都の高等女學校には、二十八年は百分比例一一、五。二十九年は一六、だけ彎曲症があると云ふことであります。京都の女學校長の申しますには、私の方の學校醫は、脊柱彎曲を診斷することに慣れて居らぬから、其爲に此割合は少ないのであるから、貴方があッちへ出張されたときは、實際を見て呉れ、さうして學校醫に指南をして呉れと云ふことであッた、それで昨年の十月高等教育會議が了ッた頃に、文部省から京都大阪へ往けと云ふことでありますから、丁度氣候もよし、松茸も食べられるし、紅葉も觀られるから行ッて見たらよからうと云ふことで、至極結構だ、今度の巡回は、松茸を食ひ、紅葉を觀、其上兼て志して居る研究も出來る、此上ない幸福だと進んで往ッて見ました、さうすると此時身體檢査をしたのが四百七十三人、年齡は十年から二十年までゞあります、そこで能く

調べて見ますと、右と左と比べると矢張左方彎曲の方が多い、それから脊柱の後屈もある、それで左右の彎曲を總計すると左表の通りで

京都府高等女學校生徒脊柱屈彎統計表

明治三十一年十一月調査

年齡	檢査人員	脊柱彎曲 左方強	脊柱彎曲 左方弱	脊柱彎曲 右方強	脊柱彎曲 右方弱	脊柱彎曲 計	脊柱彎曲 百分比例	脊柱後屈(輕)	百分比例	百分比例總計
十	二二		一四		四	一八	八一、八			八一、八
十一	四一	一	一八	二	五	二六	六三、四	二	四、九	六八、三
十二	四九		二三		八	三一	六三、三	四	八、二	七一、五
十三	六八	一	二八		八	三七	五四、六	七	一〇、五	六四、九
十四	八四	一	二四	一	一三	三九	四六、四	三	三、六	五〇、〇
十五	九七	二	三一	一	一五	四九	五〇、五	七	七、二	五七、七
十六	六八		二五		六	三一	四五、六	三	四、四	五〇、〇
十七	二四		一一		三	一四	五八、三	三	一二、五	七〇、八
十八	六		四			四	六六、七			六六、七
十九	一三		六		四	一〇	七六、九	一	七、七	八四、六
二十以上	一				一	一	一〇〇、〇	一	一〇〇、〇	一〇〇、〇 一〇〇、〇
計	四七三	五	一八四	四	六七	二六〇		三一		
百分比例		一、一	三八、九	〇、八	一四、二	五五、〇		六、六		六一、六

即ち彎曲が百分の五五、〇ある後屈の方は六、六ある、後屈は大變少ないが、彎曲は五五「プロセント」もあります。前年二十九年に調べたのに百分の一六とあるのは、それでも向ふで餘程注意して調べたからまだ一六あるので他の學校では注意をして調べぬものだから、彎曲はないものゝやうにして居りますどの學校の調を見ても似たり寄つたりが多い、尤も外國の調べの中にも、非常に多いのと、非常に少ないのとあります、これは見方が違うとか、學校が違ふとか、事情が違ふからでありませうと思ひます、同じ目で見たら、どの學校も同じ位のものであらうと思ひます。私の見る所では、我邦の生徒には脊柱の彎曲が多いに相違ない、然るに世の中には私とは反對の議論を持ッて居る人がある、實際そんな學校に脊柱彎曲のあるものでない、これは調が粗漏であッて、見方が間違ッて居るものである、我々が生理的と認むるものでも、勘定に入れてさうなッたのであらうと云ふことを、言ッて居る人があります、現にあとから御覽になれば分かりますが書物にまで書いて居る人(書名と人名とは御預り)があります。

恐らく此んな人は、實際學校を視察したことのない人であらう、見たことがないから起ッた議論か、然らざれば見方も知らぬで議論をして居るのでありませう、私が實際見た所では玆に掲げた表の通りである。小學校の方は統計表を作つて居りませぬから、お目に掛ける譯には往きませぬ小學校でも同じやうな成績を見るだらうと思ひます。私に反對の人は、生理的のものまで勘定に入れるから、數が多くなッたゞらうと、云ふて居りますが、先刻も申す通り、生理的には彎曲はあるべからざるものだ、ある必要のないと言ッてよからう、一歩讓ッて彼人達の說のやうに、生理的のものがあるとしても、果して然らばどこまでが生理的のものであるが、一言も確として議論はないではないか。もう一方から言ふと、元來學校衞生に於て、脊柱彎曲のことを喧しく言ふのは、つまる所、學校に於ては脊柱彎曲を製造する機會が多い、ウッチヤッテ置けば、ドン／＼脊柱彎曲が起ッて來る、それで少しでも彎曲が起ッたら直ちに之に注意して、之を矯正せねば其害は益々蔓延する、雙葉にして斷らずば斧を用ふるに至るからである。然り而して反對の某外科の人(名前は御預り)などは、そんなに彎曲があッて溜るものか、長年外科をして居るけれども、脊柱彎曲を癒して吳れと云ふやうな者は、殆んど稀れだ、之を見ても判ると。成る程外科醫者に行ッて手術を受けてまで、癒さなければならぬほどのものはメッタにありますまいが脊柱彎曲で醫者に來るものが少ないから、脊柱彎曲は少ないものだと云ふ證據にはならぬ。殊に此は療病上、臨牀上の目から見たので、學校衞生の目から見れば少しの彎曲でもうッちやッては置けぬのであります、人の立脚點が違ふと自然視線も違ふのであります。京都の高等女學校長の如きは、檢査をするに、

自分で側に付添て居て、一人一人に、そらあなたも左の方へ曲ッて居りますからお氣を付けなさい、貴方は右の方へ曲ッて居りますから、お氣を付けなさいと云ふやうに親切に氣を付けてやります。そこで春の檢査の時分に曲ッて居ッた生徒を、今度(秋)見ると大分直つて居る、それも校長が教員位に命じて置て、誰々に注意させろと云ふ位のことであッたならば、或はわれほどまでの効も、無かつたのか知れぬが、校長が自身で、身體檢査の場所に立會ッて、貴方も曲ッて居りますから、お氣を付けなさいと云ふやうに言ひますから、生徒も心から校長の言ふことを聞いて、氣を付ける爲に、前の檢査の時には曲ッて居ると云はれた者が次の時は直ッて居たのでありませう。或は直らぬまでも曲ッて居ッたものが度合が減ッたのであります。彎曲の有無に付て注意をすると、それ位効能がありますから少しても曲ッて居るものは直に之に注意すると云ふのは學校衞生上からは、是非やらなければならぬことです。又一方から言へば彎曲が澤山あると云ふ理由からして、其原因を取除く爲に、机腰掛の改良も出來ませう、又それがあると云ふことからして、自然生徒の强弱を知ると云ふことにもなりませう、孰れの途から言ッても、學校衞生上に於ては、少しの曲がりがあッても、直に注意しなければならぬ、衞生に於ては、凡て病を未發に防がねばならぬ、有つたら有つたときのことよなど、濟ましては居られぬ、療病家から云ふたら、悪くなつたら癒してやるからもつて來い、と云うても濟むだらうが、學校衞生家の方では、少しのものでも之を捕へて未發に防がねばならぬ。此れほど云ふても解せぬやうな人があつたら、そんな人の說は私は最早駁する義務はありませぬ、さう云ふ人には一の告辭として、顏を洗ッて學校へ行つ

て御覧なさいと云ふだけであります、それから豫告であります、彎曲が癒るか癒らぬかと云ふのであります。第一期、第二期のものならば癒ります、前申しました通り、校長が注意したゞけでも癒ッたり度合が減んじたりして居る、現に是等は癒ると云ふ證據であります、併し第三期となると殆んど癒らぬ。

それから此の豫防法としては、今日の急務は、机腰掛を生徒の身體に適するやうに、製作するのであります。此机腰掛の事は、私は明治二十五年から六年間掛ッて調べたのがあります、此は既に世に公にして居ります。又これは講習生の諸君に御話しやうと思ひますが、適當の机腰掛を與へ、書字の際に行儀を正しくさせやうとするには、必ず机腰掛を重ねなければならぬと云ふことであります、其正しい姿勢と云ふことを口で敎ゆるのも、譯はありませぬが、年齢の小さい子供には能く分かりませぬ正しい姿勢と云ふを言葉で言うて聞かせても覺えられない、試にチヨツト申して見ますれば、正しい姿勢と云へば、斯う言ふことを言はなければなりませぬ『生徒は其腰を深く其腰掛の上に載せて、上脚は座面の上に水平に安置し、下脚は前面に向ッて少しく斜にして、足蹠は平らに床上に安置すべし、脊柱は自然の屈曲を保ちたるまゝ、下腰部に當るやうに掛り、頸は少し前に傾き、目と紙面との間に一尺二寸の距離を保つべし、兩方の肘は少し開いて、之を屈したる下臂は、肘關節の所に於て、等邊三角を象づくるやうにしなければならぬ』斯う云ふやうに六ケ敷いのであります、私なれば本を棄てゝ仕舞うて寢言にも云へますが、敎員が生徒に此通り敎へやうとしても、中々六ケ敷い且生徒の方でも分かりませぬ、そこでそれを直すにはどうするか、それを豫防するにはどう

するかと云へば、物の形を以て示すのが一番宜しい(圖を示し)此圖を各教室に掛けて置いて、先づ机に倚るものは、そんな荒い風の吹く海岸の松の樹のやうな風をしては、行儀が悪いと云ふことを話して聽かせ、さあ之を見ろと云つて此圖を示します、そうすると直に行儀が直る。之は私の理想でもなんでもない、此頃京都の高等女學校長が參りまして話すのに該校にても各教場へ之を掛けた、が始終見せて置くと見慣れて感じが薄くなるから、時々は裏反へしにして掛けておく、そうすると其効能は尚ほ著しいと云ふことであります。所が今日では生徒がすつかり飲み込んだから、此圖の裏を出して置いても、これ此圖を御覽と云ッて注意すると直ぐに姿勢を正すやうになつたと云ふことであります。これ位のものでありますから、生徒の姿勢を直すには、圖を以て示すと云ふのが最も適切の方法であると云ふことは、疑ふべからざるものである。私が長年掛ッて此圖を拵へましたのも、それでこそ其苦心が届いたと云ふものです。又之より進んで彎曲を癒すには、平均なる運動方法を用ふるのであります、即ち體操遊戯であります。先づ習慣性脊柱彎曲症に就て御話しやうと云ふは、凡そこれだけであります、これより先になると餘り深く立入ッたとになりますし、且今日は時も遲くなりましたし、尚ほ其他の事は拙著生徒姿勢の枝折にも書いて置きましたし、又他にも書いた本を二三冊持て來ましたから御覽を願ひます、

(終)

●食物の養分に就て

Dr S. T.

凡て食物と申しまするものは其種類非常に多く一々數へ上げる事は出來ません。ナレども皆色々の養分

を含んで居ります、此養分と申しまする物は、皆大切で何れが優り何れが劣りと云ふ事は無いのでござります、先づ此の養分の組み立てに因て一つの食物と云ふ物が出來上つて居ります。例之ば此處に肉と云ふものが有りまするを、肉の中には色々の養ひ分が有り此の養分が寄り集つて肉と云ふものが出來上つて居ります、ソコで此の養分をば學問の方では養ひの元素と云ふ考へで食素と云ふ名を付たので有ります。(是は醫者の方で遣ひまする言葉で御座います)是を化學の方で例て申上まするを彼の元素を同じ物だとお考へになれば宜しい、化學には酸素、炭素、窒素、水素、杯と色々の元素が有ります、此の酸素炭素窒素と云ふ元素て集つて一つの物質となります、恰度食物の養分から出來て居ると云ふものは即ち化學の元素が集つて一つの物質となると同じとだとお考へになれば宜しう御坐います。(併しながら是は學問上のお話しでありませんから假りに食素は化學の元素と同じものだと申上ますが此の食素を分析しますると、つまり炭素水素窒素の元素に分かれまするけれども私はお解り能い爲めに假に化學の元素の樣なものだと申上げたのであります。)先づ食物と申す物は斯樣な工合に養分が集りまして、ソして一つの食物となつて居る者で御坐います、偖養分の中で最大切な物が三つ御坐います、それは即ち第一蛋白質其の次が含水炭素、終りが脂肪、此三つが養分の大切なるもので、ソーして何の食物にでも此の三ッの養分が這入つて居ります、只其の養分の分量の含み方が其の食物〳〵に依りて異つて居る丈けのとで、如何なる食物でも此の三つの物を含んで居ります。併しながら其の中に於て蛋白質が一番上等であつて含水炭素が下等だと云ふ譯ではない、何れも大切なもので三つ共皆入用の物に違いない、故に此中の一ッ

でも缺くとは出來ません若し一ツでも欠けましては最早是を眞個に好い食物とは申されないのでござります扨是より此の三ツの養分に就きて、一々お咄し致しまする。

先づ第一に蛋白質と申すものは、肉の中に最も多く含んで居りまする、然らば何んな者で有ると仰せられまするど、先づ俗に申さば是を卵子の白身とお考へに爲りまするとお解りになります（但し是を一ツの假令を申す迄のヿで鷄卵の白身は純粹の蛋白質許りでは御座いませんが只何なものだと申せば先づ鷄卵の白身だと申すより外御座いません、元より蛋白質と云ふ字の書方も此意味で有ります）即ち此蛋白質は養分の一ッで多くは鷄卵の中、或は肉の中に最多く含んで居るもので御坐います、然らば何の位肉の中に在るかと申しまするど、夫れは肉の種類に依つて異つて居るが、先づ大抵百目の中大凡十五匁乃至二十匁位の蛋白質は含んで居りまする是は唯平均の數を申上ました迄の事です。又牛乳の中には何の位いあるものかと申しまするど、大約牛乳百目に就て僅に三匁五分位しか無い、即ち升で量りましたならば、一升の中に三合五夕の蛋白質しか含んで居りません、極く少ないものではありませんか。夫れ故蛋白質を最も多く含んで居るものは、何じやと申しますれば、肉類で御坐います、又豆の類の中にも又此の蛋白質を隨分に餘計に含んで居りますが、是は消化が惡るう御坐います（此の消化のヿは又後にお話しを致しまする、それから又豆類に含んで居る處の蛋白質を何故消化が惡るいと云ふヿも、其時御話を致します）今も申します通り豆の中には隨分蛋白質を含んで居りますが消化が惡くつて餘り賞美致した食物では有りません。扨て以上蛋白質に就てのお咄しでありまするが其次に移つてお咄しを致します

れば即ち含水炭素、第二の食素、養分是を穀類に最も多く含んで居ります、其の分量は矢張り穀類に依つて違ひまするが、先づ大凡百目の中に七十二匁位の含水炭素を含んで居りまする、さて又含水炭素は何んな物じやと申しますると（又玆に私が例を申しますが、）先づ是は澱粉であります、倘例を擧ると葛の粉、白玉の粉の樣なものと御考下さへ是れが則ち第二番目に入用な物で穀物の中に一番餘計に含んで居ります。

第三番目に脂肪これは何んなものかと云ふに是は牛酪或は豚の脂肪肉の樣な物じやとお考へ下たされると御解りになります是は肉類殊に脂肪肉の處に最も多く含んで居りまするして其の分量は何の位じやと仰せられまするると先づ肉百目の内に大凡五匁乃至十匁（素より是は脂肪肉の處と脂肪肉でない處とは違ひますが）大抵先づ此れ位いの分量を含んで居ります、是が脂肪乃ちあぶらでござります。

扨以上申上ました三ッの養ひが、即ち鷄卵の白身とも申すべき蛋白質、それから葛の粉、白玉の粉則ち含水炭素終りに牛酪とも申すべき脂肪、此の三ッの養分と云ふは何れも大切な者で、何れが優り何れが劣ると云ふとはなく皆大切なるものでありまして、若しも一を欠く時は最早人間の好き滋養とはなりません。然るに世間には大變に間違つた考へをなさつて御出の御方が多く御坐います、それは何かと申せは則ち蛋白質は大層大切で、澱粉は左程に入用が無いと云ふ樣なお考への御方で、是には私抔も折々出會すとがありますが「米などは役に立たない物だ」などゝ云ふは大きに間違つたとで此の三ッの養素は何れも皆人生欠くべからざる至つて大切な物で御座いまする。ソコで醫者が食物のとを申しまするに此の三ッの養分を一日間大凡何匁づゝ入用だと申しま

する（是は學問上の御咄ですが）食物の養分は一日に何匁宛入用かと云ひまするに、獨逸國の學者「ホイト」先生と云ふ名高い御方は、獨逸國の先づ中等の男で、中等の仕事を仕まする壯健の男に就きて定められました數は（先生が數十年の間經驗をされて出來ました數で御座います）即ち蛋白質が百十九瓦日本の量目に直しますると三十一匁強、脂肪が五十六瓦日本の量目で十五匁弱、それから含水炭素五百瓦日本の量目で百三十三匁と極められました、尤も是は西洋人に割り付けました數で、日本の人は西洋人よりは身躰も矮から是より少し減して差支へはない筈です、併し此の數は先生が長き年月の間苦勞して、定められた數でありまする、日本では未だ學問の開けた年限が短いから定まりました數は未だ出來ませんから今日申上ることには參りません、併し日本でも大分專門の先生方が盡して居られますから、追々其の數も定らるゝと考へます、然るに近年西に（獨逸國）に於きましても「ホイト」先生の數は些と多過ぎる今少し尠なくても宜しいと、云ふ學者も出て參りました中々其の說の方が勢力が有る樣で當時八釜敷い議論になつて居りまするが是は分量の多少に就ての議論で御座いまして、此の三ッの養素が何れも入用だと云ふことに就きましては、誰れしも信ずる處で最早動かせませんことです、（日本にても此分量の多少に就ては種々の說もありますし又時に新聞抔にも出て居りまするから何うか是等の說には間違ひなさらんやうに願ひ升）シテ見ますると此の三ッの養分の入用なることは申す迄も無いことで御座いまする、然るに前申上まする通り世間では「蛋白質は滋養になるが、含水炭素は滋養にならない」と云ふ樣に思召す御方が有る樣ですが、是は甚だ間違うて居ります、度と御話致す通り食物の種類に依つて其養分の

含み方が異つては居ります。即ち例を申上まするならば蛋白質は肉の中には多分に御坐いまする、けれども穀物の中には蛋白質が少ない、又澱粉は穀物の中には多分にありまするが肉の中には少ない。然るに此の三ツの物は何れも優り劣り無く皆大切なるものでありますれば程能く是を取らねばなりませんぞして是を取るには何う云ふ工合に食物を召し上つたならば宜いかと云ふ、此處が一番大切で御座います、先づ其物を最も多く含んで居る物からお取りになるのが宜しい猶委しく申しますると、蛋白質は鷄卵や肉からお取りになるが宜しい、澱粉は米からお取りになるが宜しい、そして矢張り肉から脂肪をお取りなさるが宜しう御座います、若し米麥のみで蛋白質を取らうと致しますると、それでは非常に多量の米を食ねばなりません併しながら人間の食物にはソレ〳〵度合が有りますからそんな多量にては我々のお腹は充滿致しまして是を容るとは出來ません假又食べ得られたにせよ、胃を害して病氣となりまする、又肉から澱粉をお取りにならうと思ふと是又非常に多量の肉を召し上らんければならん、何故なれば肉の中には澱粉は極めて僅かしか御座いません、それ故に先づお取りにならうと思ふ物の餘計に含んで居る物を召し上がるが至極宜しいとです、即ち蛋白質をば肉からお取りになり、脂肪も肉からお取りに爲り、澱粉は穀物からお取りに爲るのが最も宜しい、且つそれが大邊に徳用な譯で御座いまする

斯樣な理有が御座いまするから混食と申して種々の物を混ぜてお食べなさるが一番御徳用でありまする。先づ私共は日々穀物、肉、野菜、是を混合して食べます是が一番上等で且又學問の理合には叶つて居る、最上等の食物で御座いまする、それ故に私共の食べまする食物の出來て參りましたも偶然ではなく、

是が天然の理に自然で叶つて居りまする譯で御座います、即ち私が最も御注意を願ふ處は、此點で有りまして「蛋白質は滋養で澱粉が滋養でないと」云ふとは甚だ間違つて居ると云ふとは大抵お解かりになりましたらうと存じます。それ故に日本人の食物は通常の米の御飯に鳥肉獸肉魚肉、此三ッの肉と野菜を混じた物が私共日本人には最も好い食物で御坐います、（我々の米は西洋人のパンと同じ物で御座います）何に致たせ「ホイト」先生の立てられた數に依つて勘定を致しますると、何うも我々の食べまする食物は少しく養ひの分量が足りません倚委しく申しますると、日本の食物は含水炭素が多過ぎる、即ち御飯は少し餘計に食べ過ぎ蛋白質即ち肉の食べ様が少しく足りない樣で御坐います、（是れ只「ホイト」先生の立られた數に從て私共の食べて居る食物を比較した丈けて御坐います）それ故に今少し私共が食べて居る膳部に肉を增したならば宜しからうと存じます。併しながら其詳しき事に至りましてはソレ〱專門の先生達が只今實驗中でありまするから、其の中何れ日本の人は是れ丈けの食物で足りると云ふ成績は分る事にならうと存じます、尤も是は何年掛りまするか中々容易に出來んとで御坐いまする。

以上申上ました處は養分のお咄しで、其分量の多少と申しまするとは是は食物の分析表に就て御覽になれば是が多い少ないと云ふとはお了解になります、」先づ何に致せ食物では此養ひの分量を一番餘計に含んで居る物が最も上等なので御坐います、

扨て是よりお咄しが少し精細くなりまするが成程食物の善い惡るいを觀別けまするとは、分析表に依て養分を餘計に含んで居る物が善くつて、餘計含んで居らん物は惡るいと云ふとは解りまする樣なもの丶まだ〱此の分析表ばかりでは解りません何故なれ

ば食物の善い惡るいと云ふヿは分析表で知れまするが茲に一つ皆樣のお考へを願はねばならぬと申すは則ち彼の消化の如何と云ふヿで御座います扨此の消化と申しまするは私が事新らしく申す迄も無く「コナレル」と申しまして其の食べたる食物が能く溶けて、血液の中に這入る事を消化と云ふので有りますソレ故に消化の惡き食物は假令食べましても身躰の內には充分吸收せられませんから何程養分はあると申しても身躰の肉に入りません時は何の役にも立ず只消化器に無駄骨を折らせる斗りで御座いますソレ故に分析表の上に於ては幾か善く見えましても是が能く身躰の肉の中に這入り込まなければ必ずしも善い食物ではありません重複い樣ですが今申す通り故何程分析表丈けでは善い食物でありましても、消化の惡るい食物と善き食物とは申されません、假令ば彼の豆類の中には隨分蛋白質を含んで居りまして豆百目の中には蛋白質が大凡二十目位あります、分析表では誠に上等の食物で殆んど肉と違ひません結構の物の樣ではあるが中々ソーは往きません何故なれば豆の中に在る蛋白質は消化が惡い故で御座いますそれ故に豆は分析表では大層上等の食物の樣ですが實際は消化ませんから餘り上等の食物とは申されません。併ながら此の消化の試檢と申すものは困難の仕事でありまするちとお咄しが汚ない事に渉りますが聊か消化の試檢に就てお咄しをして見ますると先づ食べました者を分析して何を何匁何を何匁食たと云ふことを書付けて置きまして後に出ました所の大便と小便を取り寄せまして、又分析を仕ますソーして食べました物と出ました物とを比べて此の養分は何匁目身躰の中に這入つたと云ふヿが解かりますお咄しにすると一口の樣で御座いますが實際困難の仕事で中々一回の大小便を試檢仕まするには先づ一周

間も懸かります斯樣な譯ですから消化の試撿と云ふとは中々の大仕事で御坐います（醫者の仕事と云ふ者は實に不潔な且つ込み入つた者で御坐います斯樣なとを致しましても何うか日本の爲めに仕度いと思つて居るのでありますから責めては皆さんに於ても醫者と云ふものは容易ならぬ者だと御察し下さるれば我々醫者に取りましては誠に有難き仕合で御坐います）斯の如く消化の善い惡るいと云ふは一口に申しまするけれども斯樣の面倒な仕事で容易には出來ません鳥渡他から考へると「モウ出來そうな者だ大分に長いと思ひませうが實際中々出來ません併し專門の先生方が益々實驗に勉强せられて居りまするから其の中には至極明白な調べが附くだらうと存じまする倘次にお咄し致し度きは食物の分量です縱令何の樣な上等の食物でも召し上る量が少なくつては養にはなりません例えば鷄卵は何うも至極上等の食物で分析表で見ましても消化の方でも一點の批難の入れ樣のない物ですが何分にも量が少ないから從つて其の中にある養分も少ない、そこで其効能も少くないので御座います（鷄卵は反毛鷄の卵子の大きいのでさへも二十匁目位しかない）此の卵子は一つ乃至二ツ召上つた處が左樣の益はありません善い物には違ひ有りませんが悲しいかな卵子と云ふ物は量が小さいから仕方がないモウ一ツは牛乳です牛乳百匁目の中八十七匁目は水でありまするから一日に一升の牛乳を飲みましても養の分は僅か三夕位ほか有りませぬ斯樣な理合で一點も批難の入れ樣もない上等の鷄卵或は牛乳すらも其の召し上る分量が少なくては從つて其の養分も少ないから滋養も少ない譯で有りますれば成る丈け充分の分量を召上ると云ふとが甚た大切なるとであります右の如き割合のもので有ますのに（私抔は醫者ですから能く出合しますが）「私

は朝夕牛乳を五勺づゝ飲みます」と大層に慢顔に云ふ方が御坐いますが成程素人の考へでは牛乳の五勺も戴けば大層に善いことと思も一應無理ならぬことでは有りますが夫等のお方の爲めに何此の分量と云ふとを別段に申上たので御坐います」

終りに臨んでモゥ一ツ食物に就て御注意を願ふことがありまするそれは分析表消化分量の外の事で則ち代價でありますが縱令分析表も善く消化も善く養分も多分に御坐いましても價の非常に高いものでは却つて不適當で御坐います成程日本が貴人金持ちの御方斗りなれば幾ら高くつても宜しいが私の申上げるのは日本の人一般にさせたいと云ふ考へでありますれば元より是は不適當の事で御坐います何んとなれば日本の人一般が金持ちではなへ貧乏人が多く有ります幾ら善い食物でも價が高くつては善い食物とは申されません價の高い食物では貧乏人が食べる事は出來ません是又御注意を願ひまする處であります前申す通り私共醫師の申上げる事は一人に就て申上るのでは無く日本國一般を指して申うすのであれば知らず識らず代價の事に迄論じ移るので御座いますが此の代價の事に就きましては至極大切の事で醫科大學の坪井助教授が早く此の事に心附かれ非常に熱心に取り調べて居られます而して其の調べらるゝ處を聞くに金拾錢を以て各何れ丈け宛の食物を買ひ求めらるかと云ふことです既に此の内肉丈けの事は先生がザツとお調べになつて東京醫學會雜誌に御載せのことゝか有ります中々困難の事で御座いますが先生の此の事に早く御注目なされたは私共に取つて實に喜ばしい且つ是を喜ぶと同時に一日も早く其の成績を知り度いと存じまする右の次第で有りまするから此の代價と云ふことも亦甚だ大切のことであります。

以上申上げましたる通りの理合でありまするから食

物をお撰びに成るに就きましては先づ第一に御注意なさるとは養分の多少（是は即ち分析表を御覽になれば直ぐお解りになります）其の次は消化の善惡此の物は消化れるか消化れないかと云ふ事の御注意を成さるが肝要で御座いまする第三に御注意になりまする點は分量の多少且つ終りに臨んで御注意ならんければならんとは價の高下總て此の四ッの點に能く御注意遊ばさなければなりません中々食物の試検と申すとは困難でありまして消化の一つですから前に申上たる通りの困難がありますから此の四つの點を取り調べまして是が善い食物と云ふ事を申上るのは中々六ケ敷事で御座ります。

終りになりまして重複樣ではありまするが尚一回操返しを致します決して世間の人がお考への通り「蛋白質が滋養で米が滋養でない」と云ふは間違ひの咄しで御座います澱粉でも蛋白質でも脂肪でも三つとも大切なるもので肉からは蛋白質も取り米からは澱粉を取り脂肪を肉より取ると云ふ事が一番大切なる事でありまする何うか皆樣滋養のとに就きまして箇様のお間違ひをなさらん様に御願ひ申ます、



●生徒身體檢査の結果に就いて

U. O.

此篇は東京市牛込區内の市立小學校に於て實施せる生徒體育奬勵法なりとて投稿せられたるものなるが蓋し體育奬勵の一法として玩味すべき價値あらんか

明治三十一年勅令第二號第五條に基つき同年二月時の文部大臣西園寺侯爵は學校職務規程を定められ其の第九條に於て學校醫は明治三十年文部省訓令第三

號學生々徒身躰檢査規程に準據し各生徒の身躰を檢査すべしと命令せらる是に於て道廳府縣郡市町村の設置に係る學校は毎年四月十月の二回學生々徒の身躰を檢査せざるべからざる事となれり然れども昨年度は種々の事情よりして未だ學校醫の囑托せられざる學校少からざりしと雖ども當學年度に於ては特別の事情ある村立學校及人口五千未滿の町立學校を除くの外學校醫なき學校なく隨て生徒の身躰を檢査せざる學校なきに至りしなるべし豈に學校衛生上の一大進歩として賀せざるを得んや然れども熟眼を社會の全局に注げば未だ學校衛生上の一大進歩として安んず可からざるものあり啻に僅少の病者に注意を加へ或は停學を命じ其の他一般生徒に向ッて一應の衛生演說を爲すに止まるが如くんば其の進歩は徒らに形式上の進歩に止まり事實上に得る所僅少なりと云はざるを得ず是豈に法令の精神ならんや

夫れ學生々徒の身躰を檢査し其の發育及び健康の狀態を知悉するは一には當事者の參考に供し一には生徒衛生の欠點を指摘する等益々衛生思想を發達せしめ各自をして之れが躬行を促がし薄弱なる者は強健に赴き強健なる者は益々強健を加へ強弱共に天然の壽を全ふせしむるを以て目的と爲すにあり然るに只一應の注意に終り他に奬勵法を施行せずとせば其の目的を達する事至難なりと云はざるを得ず是れ吾人が杞憂の存ずる所なり蓋し身躰檢査は我が邦に於て實施の日尚ほ淺きを以て未だ講究中に屬するものあらん或は既に奬勵法の實施せらるゝものあらん吾人は世の身躰檢査の結果に就き能く前述の目的を達するの方法を講究實施せらるゝ所の諸彥に向つて奬勵名案の敎示を吝む勿らんことを望み併せて學校衛生上に關する金科玉條の美を成さんことを希ふものなり

左に東京市牛込區内の市立小學校に於て實施せる奬勵法及び實施後の狀况の大畧を掲げ以て馬骨千金の轡に傚ふ

一、同年齢中躰格優等にして强健なる者男女各壹人を撰抜し躰育奬勵章に賞狀を添へ附與す

但し滿七歳より拾五歳迄なるを以て一回に徽章拾八個を要す



此の如くせば男子は勿論女子と雖ども細腰蒼白を貴び痩せる藥を欲するが如き躰育上の弊風を去り肥滿長大の貴ぶべきを知り益々衞生と躰育とを勉むるに至るべし

一、同年齢中前回檢査に比し最も發達の著しき男女各壹人を撰拔し躰育奬勵章に賞狀を添へ附與す

但し滿七歳より拾五歳迄なるを以て一回に徽章拾八個を要す

此の如くせば先天的に躰格劣り躰質弱き者と雖ども自棄の心を去り衞生に注意し躰育を勉むるに至るべし

一、右徽章は學校式日等に左胸に着け登校するものとす

該法實施後の狀况を見るに男女を問はず躰格の優等なる者も身躰の薄弱なる者も一般に次回の身躰檢查には優等者となり賞狀と徽章とを得んことを欲し既に躰格優等賞を得たる者にても次回には比較的發達顯著の内に加はり尚ほ一個の徽章を得んことを望み果ては父兄に至るまで一層躰育の勿諸に附す可からざるの感を深ふするが如き觀あり

右徽章は「ニッケル」製にして壹個拾五錢宛なるを以て身躰檢査の結果につき一層の効果を見るを得ば豈

に廉なるものに非ずや若し止むことを得ずんば賞狀のみにても可なり其の他經費を要せざる方法もあらんか

　但し男生に附與する徽章の表面には身長壹丈餘に渡らせらるゝ日本武尊が劍を揮ひ草を薙ぎ火難を避け玉ふ御肖像を彫り女子に附與する徽章の表面には神功皇后の三韓征伐の御正裝を彫りたり

○箴　言

古語に曰く凡そ小兒を安からしむるには三分の飢と寒さを帶ふべし

衛生叢談

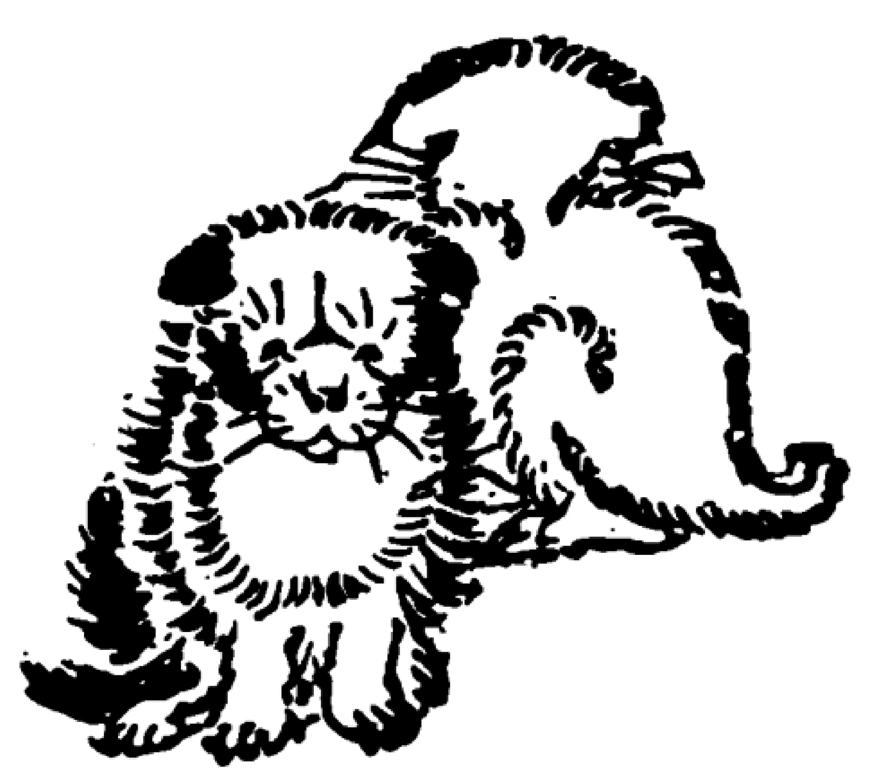
◉美人となる秘訣

今より一百八十三年前に九十歳の高齡に迄逹し九十の時に死なれた「ニノン、ド、レンクロス」と云る婦人(是れは佛蘭西の人です)がありましたが其人は死ぬ迄顔が奇麗で艶もよし彈力も有る、何うしても九十の婦人とは見へない、餘り何時迄も艶が美いから其人が不思議として是れを尋ねまして、何か秘傳が有るだらうと言ひましたら、婦人が曰く夫れは有る(此の秘傳は獨り此の婦人が申した丈けでなく只今では醫者も皆な申して居る事ですが今此の秘傳を御授け申しましやう。)則ち桶一杯の水とフランチルにて。妾は若い中から雪の朝でも水とフランチルとを以て顔を洗ひ、決して外に秘傳のある事では無いと云

ふたそうです。秘傳とも云へば人は皆な藥か咒術でもあるとかと考ゆる方も有るかも知れませんが左樣なるものは一つもなく只冷水にて冷水は人身上に實に必用の者で、此の節は醫者も能く夫れを申しますが、種々なる藥を用ひたよりも餘程功能が多いと云ふ事は、掩ふ可らざる事で、今日皆な人の存じて居る事で有ります。

●皮膚の養護法

皮膚の養護法に就いて申しますればその。皮膚の看護に一番宜ろしい者が二つ有ります。度々皮膚を洗ふのと下着を換ゆるのです、約言すれば度々湯に這入り、衣服を着換るのです。皮膚を洗滌しまするには御承知の通り二た通り有つて、全身を洗ふのと一部分を洗ふので有ります、即ち毎朝顔を洗ふのは寢む氣を醒すのでなく、眼やにを取る計りでなく皮膚に塵や脂肪が溜まつたり杯するのを取るので、即ち健康を保つ一つの手段で有ります。通常の水に這入るのは、日本では餘り用ひませんが、温かい國、熱帶の地方或は歐羅巴杯では、男女共好んで水に這入ります。只水に這入つた丈けで奇麗になる譯には往かない、そこで度々衣服を着換ゆる事です。印度の「ヒンドスタン」の民は宗教上の教に由て、毎日一遍づゝ水浴致し、「ガンヂス」河の邊に住で居る所では毎日此川に入ります、殊に熱帶ですから冬でも水をあびます、少なくとも毎日一度づゝは水に這入るから至つて奇麗だそうで有りますが私も度々此等の人に會ひましたが身躰に一種の臭ひがあります、夫れは服裝の臭ひですたゞ水に這入る丈けで衣服を着換ゆると云ふ事が御坐いませんから、夫れで衣服に汗や垢がたまりて臭ひがするのです。皆樣方も御承知の



通り衛生學の創始と云ても宜しい「ペッテンコウフエル」が人間の替りに襯衣が度々湯に這入ると申しましたが、御承知の通り、歐羅巴人は湯に這入るのは少くない獨逸人抔は度々湯に這入るとは申しても月に一遍です、中等以下の人なれば一年一遍這入るか這入らぬ位の者です、又た生れた時に入れて貰つた丈けで、まだ湯に這入つた事はないと云ふ樣な職人抔も有ます。日本人なれば毎日の樣に、少ない人でも三日め四日め位には這るが、今申した歐羅巴人抔は湯に這入らんで能く健康で有ると思ふが、歐羅巴人は湯に這入らぬ代り、シャツ計りでなく下着から取り替へます、歐羅巴では上衣は汚なくても下着さい清潔で有れば宜しいと云ふのが彼の國の風習です。巴里抔では夏冬共に毎日一度づゝシャツを着替る人が多くわります湯に這入らぬから皮膚に塵がたまります、皮膚にたかつた塵が毎日交換する下着に着きますから、自分は湯に這入らんでも、下着が湯に這入るから恰も自分が入浴したると同じで有ります夫故「ペッテンコウフエル」が言はれたのは實に適當したる言葉で有ります。

●腸窒扶斯の看護法

腸窒扶斯即ち傷寒の病氣には一に食物に非常に注意して、是等の患者には一番先に食物を與へてはなりません、假令ば稀粥とか鷄卵とか牛乳とかを與へる樣にして外には何も與へてはならんと命令を致しまする、其の時は嚴重に其命令に從はねばならないのです、中には人間の躰は食べんで居ては勢力が衰へると云つて強ひて患者に食はする者が有りますが、之れは大きに間違ひです、一躰此の腸窒扶斯と云ふ病は食物を消化しまする臟腑の中に潰瘍が出來るので御座いますから、可成胃腑は靜にせねばならんのです、若しも非常の下痢でもあつた時は藥で止め

なければならない所に食物をやつては段々病氣を重ねるのであります、デ斯樣の病氣は假しや快くなつて來て熱がさがりましても醫者は十日なり二週間なりは御飯を食べる事を許しません、然る所「御飯を食べないでは不憫だ」と云つて食物を食べさせ、夫が爲めに命を失ふた事があります、今茲に一ツの例を擧げて見れば或る所に矢張り一人の傷寒病みが有つたが、段々熱が下がつて來て御飯を食たがる併し醫者の方では御飯を食べてはならん食べてはならんと云つて非常にコレを禁じました、然る所早く快くなる樣にと患者のお婆アさんが不動尊に供へた餅か何かを食べさせました、そうすると翌日から致して病氣が段々重く成て、とう〱歸らぬ旅に赴いて仕舞いま



した、斯の如き例は實に澤山あります、昨年も或る所に患者がありまして熱も下がつて十日計り立ちましたが、併し未だ身躰が大分弱つて居るからして食物をやつてはならんと禁じて置きました、然る處病人は非常に食べたがるので其の傍らに付て居る處の母親さんが内證で餡麪包を三つ食べさせた、そうしますと其翌日熱が上つて參りまして非常に容躰が變りましたから之れは何か食せかどうかしたのだらふと醫者が段々糺して見ました所が、始めの中は中々隱して居つて云ひませんでしたが、種々に訊問致したら遂々餡麪包を三つ食はせたと云ふ事を白狀致しました、ソコデ夫れが爲めに患者の熱が上つて來た處又候四五日立つと亭主が肺病で死にました、けれどもそんな事を患者に咄してはならんと申して醫者が堅く禁じて置きましたのに素人と云ふは馬鹿な者で、其の事を患者に咄した、何しろ亭主が死んだと

云ふ事ですからして一晩續け泣きに泣いて居りましたが、遂に其の翌朝死くなつて仕舞ました、斯云ふ例は實に澤山有りますからして膓窒扶斯に罹りました時抔は隨分看護法を嚴しくせんではならん、醫者の云ふ通りを守つて決して妄りに食物を與へたり、又は詰らん話しを聞かしたり、心配に成る事を言つたりしてはならんので有ります。ソコデ又我が日本の風儀として私抔が患者を診に往くと見舞人や親類の人が澤山患者の枕元に寄り集り、非常に騷いで居るが一躰病人の枕元で騷がせると云ふのは極く善くない事であらうと思ひます。

●看護は嚴正の注意にあり

成るべく斯う云ふ風の患者は靜にして精神を安めなければならんのですから、先づ見舞人や親類の者が來ても別の座敷で應接して決して患者には顏を見せん方が宜しい、若しそう無くして餘り枕元で「ガヤツク」と夫が爲めに何うしても病氣が快復致しませんから、是等の事も餘程嚴敷注意しなければなりません。實に看病法には嚴しいと云ふ事が一番重なる事です、其他斯う云ふ急性の病氣に成ると云ふと醫者が藥を配劑ますにも餘程注意をして用ゐるものですから、患者が「此の藥は大變苦いから‥‥」と云つても看護人が嚴しく服ませんと醫者は皆な服んだ積りで治療をするのに、患者が服まなかつたり何かすると大に結果が悪いのです、其他部屋も清潔にして室扶斯の患者抔は時々仰天に向いたり横を向いたりして、躰の位置を換てやらなければなりません。又病氣が能く成つても先づ大概醫者の方に規則が有りますから、熱が下がつても幾日目だから座つて宜しいとか、昨日座つて差支ないから今日は少し位歩るいても宜しいとか、十日も十五日も經つてからなれば庭に散歩しても宜しいとか云ふ命令を致します處

が、患者が輕忽みをして未だ夫程に癒らん前に散歩をしたり何かをすると引返す事が有ります、故に斯う云ふ事には餘程嚴しく致さなければなりません、嚴敷醫者の命を奉じてやると云ふは看病の一番重もなる事で有ります、其の外看病をするには能く物事に氣を付けなければならんです、大概患者の脉は何の位うつ者である、體温は何の位の者であると云ふ樣な事位は心得て居つて、若し容體が換つた時は急に醫者に知らせなければなりません。急性病は外の病氣と違つて二十四時間位に變ずる事がある故に是れ等の病氣のときは醫者も日に一度や二度は診なければなりません、併しながら醫者も忙がしいとそうは往きませんから、成る丈け手慣れた看病人を雇つて置て看病させるが宜しい、若しそう往かん時は家の者が注意して顔の工合から、便が出れば便の工合から、總ての事に注意しなければなりません。夫故に看病には極く嚴しいと云事と、物事に注意すると云ふが一番大切なる事でありまする。能く「看病は親切にしなければならん」と云ふ事を申しまするが、勿論看病は親切でなければならんのです、誰でも親切な看病はイヤ處ではない一番親切が重なる者ですけれども、其親切と云ふ事は六ヶしい者で、表面の親切もあれば、腹の中の親切もあるし、夫れから又本當の親切と思つて仕た事も不親切な事があります。假令ば馬鹿のお婆あさんが孫を可愛かると同じて本當に可愛がると宜しいが、若し夫れが溺れると成長した上にて碌な者にならんのと同じ事で、物を愛するには大抵斯う云ふ風に愛さなければならん、ア、云ふ風に愛さねば

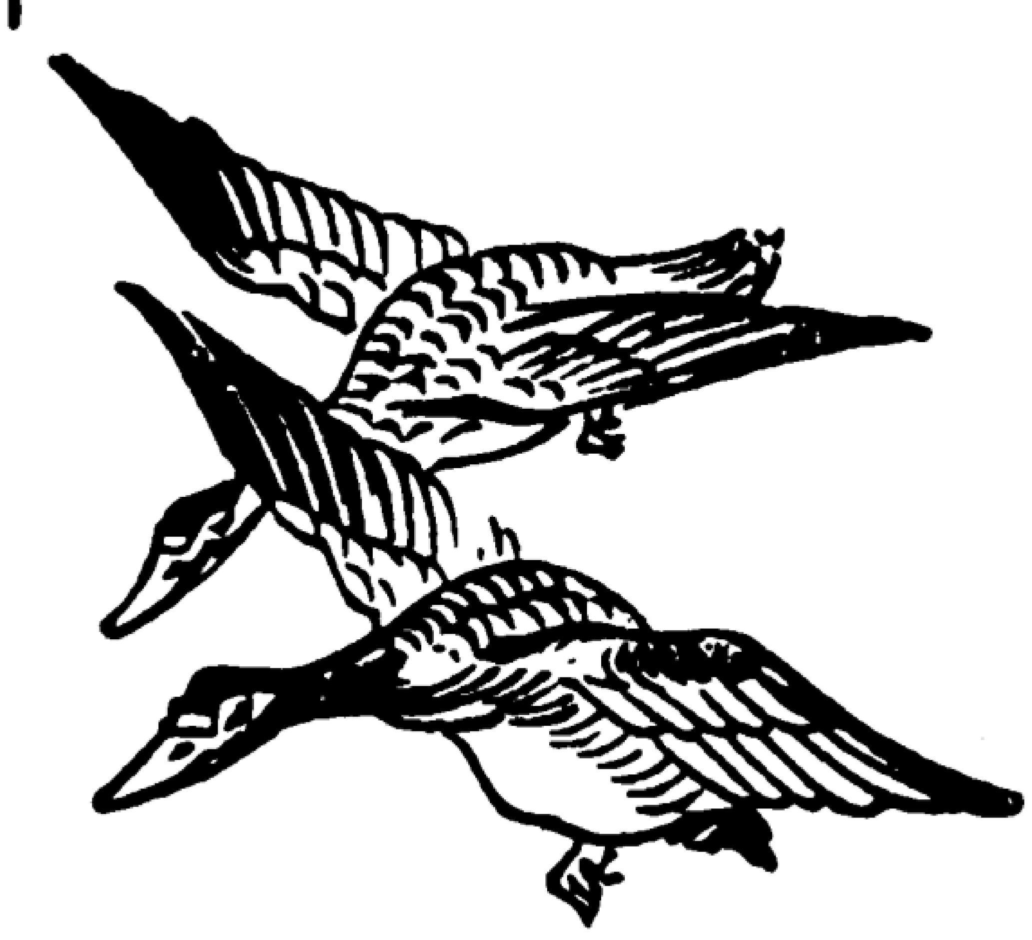


ならんと云ふ極りがある、夫を只極り無くするは眞正の愛で無くして溺れるのです、看病も其の通り腹が減つたらうと云つて物を食はせたり、退屈したろうと云つて馬鹿な咄しをする抔は、眞正の親切では無い則ち親切に溺れたので、何でも看病は注意と云ふ事と嚴しくする事、夫れを行なつた上で本當の親切な看病が出來るのであります。

●動物性食物と植物性食物

凡そ人の食物は牛肉等筋骨の組織に必要なる形成體と米麥等の如く人の體温を保持するに必要なる燃燒體との二種とす固より動物質一方のみにても植物質の方のみにても身體を養ふ上に就ては不都合なかるべく何れも混用するを要すべきとは勿論ながら都會に住する人は兎に角に僻地山村に住する所の者は如何にして營養を全うすべきや古へよりの慣習にて禪宗の僧侶は生涯肉類を食せずして能く其健康を全うするのみならず隨分百歳近くまで生活したる者あり是等の長命者は都會には少くして却て山間僻地若くは僧侶等に多きは如何なる原因なるか聞く內務省の統計によれば長命者は肉食者よりは却つて精進者即植物性食物を取る者に多きが如しと之に就き某藥學博士の說によれば是れ蓋し肉類に代用すべき野菜を多く食し清凉の空氣中に運動し精神を勞することと少きは一の原因なるべしといふ其肉類に代用すべき野菜とは如何なるものかと云ふに譬へば大豆の如き芋の如き麥の如き豆腐の如き麩若しくは湯葉の如き蛋白質に富める者を食するにありとの事なるが強ち長命者は植物性食物にありと斷定することは到底出來得べきことにあらざるなり要するに上等社會は滋養物を食ひ榮耀に暮し居るに拘はらず却つて長命者少く下層社會は植物性食物を多く食する

に拘はらず長命者多きは蓋し外界の事情即ち適度の運動、清淨の空氣、精神の安靜等は大にあづかりて力あるものならんか左れば都會にありて精神を勞し身繁劇の職にありて此植物性食物のみを取るに於ては遂に營養不足を免れざるべく一概には斷定すること能はざるべし但し大豆芋麥麩等の如き蛋白質に富めるものは宜しく常に動物質の副食物として賞用すべきは尤も緊要なりとす、



●男女兩性の分るゝ所以

英國は男より女の超ゆる數歐洲各國何れよりも多く且此上は次第に減少に向ふ者ゝ如しと云ふ但し女より男の多く生まゝ理由は尙未だ決せざれどもサドレルと云へる人の說には父の年齡母より長すれば男子生ると云へとも此說は眞に假想に過ぎずして精密なる統計家は之に對し社會的勢力が或る作用を有するにあらずやと說けり又バスールと云へる人は女子に對する男子の割合は地方に於てより都會に於て少し又私生兒に在りては公生兒に於てよりも男子の生るゝこと少し是れ蓋し母の希望が胎兒の性に心理的の勢力を有するものなりとの說を出すに至れり

編者曰く余は男女出生の多少は生理上心理上如何なるものかを默想するや久しサドレル氏の所謂新生兒の性は父母の年齡に依りて決せらる即ち父の年母に長ずれば男兒を產すとの說は只事實上に合するのみにして毫も當らず又統計家の所謂社會的勢力云々は意味放大に失して了解に苦しみバストール氏の私生兒にありては女子の多く分娩するは母の希望力胎兒の心理的勢力を有するものにして父母皆男子を欲す是れ男子の多く生るゝ所以而して私生兒は自から

人に對して耻ちなりとして男子を欲するの念薄し是れ女子の割合に多しとの説も又余の悉く敬服する處にあらざるなり

余の默想する處によれば統計家の所謂社會的勢力も含蓄すべく又心理的勢力の感化にも基く者なるを覺ゆへし即ち其配偶者躰軀の强弱愛情の厚薄は尤も主なる原因にしてなほ之を愛情の點より論ずれば配偶婦人の其夫に對する愛情は其夫の妻に對する愛情より始終優る時は即ち母の希望が胎兒の性に心理的勢力を及ぼして女子を分娩し是と反對に夫たる者の愛情は常に妻の愛情より優るときは必らず男子を産するを知る故に余は配偶者愛情の厚薄如何を察知せば容易に分娩の男女兒を豫言して的中せざることなかりき此説に據れば英國の如き女子多くして男子少き原因の如きも又自から了解すべし即ち英國の如きは女子の多くして男子少きが爲めに女子の男子に對する愛情は固より男子の愛情より濃厚ならざるべからず濃厚なれば隨つて女兒を多く分娩するに至るは是れ當然の理なりといふべし人或は言はん初産には男兒を産し第二第三回の分娩には悉く女兒を産せり是れ如何なる心理的作用なりやと余は前述するが如く男女兒の分娩を豫言せんには其配偶者の情交を熟知せざるべからず或時代に於ては男子の愛情女子に勝るあり又女子の愛情男子に勝るあれば其第一回に男子を擧げし時代には男子の愛情女子より勝ると多きに因りしなるべく其第二回第三回に至り悉く女子を擧げし此時代に於ては男子の愛情は最早第一回時代の如くならず却つて女子の愛情の勝りしに原因したるものなるべし余の此默想は世間配偶者によりて仔細に歡察すれば强ち其誣妄ならざるを知るべし但其説の聊か奇に屬するを以て採否は博識なる諸氏の判斷に讓る

●近時に於ける各國男女人口比較は左の如し

國	總人口百に付男	總人口百に付女
合衆王國	四八、五四	五一、四六
墺地利	四八、九二	五一、〇八
丁抹	四八、七六	五一、二四
日耳曼	四九、〇三	五〇、九七
子ザーランド	四九、四二	五〇、五八
西班牙	四九、〇四	五〇、九六
瑞典	四八、四三	五一、五七
那威	四七、八七	五二、一三

●貝原益軒の童子訓

貝原氏の學識經驗共に秀でたることは人のよく知る所なり又醫學に委はしく良醫たるに愧つる所なきのみならず當時衞生學の開けざるの時に當り左の言をなす其眼識の卓絶したるものと云ふべきなり、

凡そ小兒を育つるには初生より愛を過すべからず愛過ぐれば却て子を損ふ衣服を厚くし乳食に飽かしめ



れば必ず病多し衣を薄くし食を少くすれば病少し富貴の家の子は病多くして身弱く貧賤の家の子は病少くして身強きを以て其故を知るべし小兒の幼生には父母の古き衣を改めぬひて着せしむべし絹の新しくして温なるは熱を生じ病となる古語に曰く凡そ小兒を安からしむるには三分の飢と寒とを帶ぶべしと是古人小兒を保つの良法なり世俗之を知らず小兒に乳食を多く與へて飽かしめ甘きもの菓物を多く食はしむる故に氣塞がりて必ず脾胃を破り病を生ず小兒の不慮に死するものは多くは是に依れり又衣を厚くして温め過せば熱を生じ驗氣を漏す故筋骨ゆるまりて身弱し皆是病を生ずるの本なり唐も大和も古より童の衣の脇を

明くるは童子は氣盛んにして熱多き故熱を漏さんが爲なり是を以て小兒は温め過すは惡しきことゝ知るべし天氣よき時はをり〳〵外に出して風日に當らしむべし斯の如くすればたゞへ堅く血氣強くなりて風寒に感ぜず風日に當らざれば膚もろくして風寒に感じ易く煩ひ多し小兒の養の法をかしづき育つるものに能く云ひ聞かせ敎へて心得さすべし

◎箴言

「ヘッテンコウフエル」曰く人間の營りに襯衣は毎日湯に入れ身体を健康にするために必要なれば如何に金を用ゐても差支なし十錢のものを食し一の働きをなし二十錢のものを食して三の働きをなすといふ時には其多き方につくべし多く費しても強壯となり多なく金を得れば却て得る所多し

中外彙報

◎小兒と「サッカリン」糖

（大日本私立衞生會雜誌）

英國のクラー氏は「サッカリン」糖を食して胃腸に害を及ぼすことなき觀察を遂げ此頃之れが報告をなせり其梗概に曰く普通の砂糖は牛乳に混和して小兒に飲用せしむる塲合の如き動もすれば下痢を惹き起すの虞れあるも「サッカリン」糖は斯かる危險を有せず試に見よ普通の砂糖は胃腸病に罹れる小兒に食せしむる時は「アンモニヤ」の分泌物を增加するの傾きを免れず而して此分泌物は「アルカリ」の作用によりて減耗せしむることを得是れ其原因酸の釀成多きに基くべければなり故に小兒の下痢病をして酸の中毒によれるものとなすを得ば小兒に普通の砂糖を食せ

しむることは時として危險なるを免れざるものと知るべし之に反して「サッカリン」糖は「アンモニヤ」分泌に就て何等の作用をも與へたることあるを見ず云々

●東京府下の結婚出産死亡數

去る三十年間に於ける東京府下に於ける結婚數は府下に本籍を有するものゝ事實にして其總數は壹万三千七百一偶なり



出産數　生産死産を合して五万五千七百五十二人而して内五万四百三十一人は生産にして五千三百二十一人は死産なり

死亡數　四万五千九百七十五人なり而して月別を以て之を見るときは八月尤も多くして四千二百二十五人四月尤も少くして二千七百三十六人なりと

●日本體育會の披露會

同會にては本月九日午後三時半より麴町區九段坂揩行社に於て役員新任の披露會を兼ね集會を開かれたり豫て本會へも案内狀を遣はされしかば時間は少しく遲れしかど參會することゝせり揩行社門前には國旗を交叉し人車の輻湊せること堵の如く先づ玄關に刺を通ずれば樓上の會場へと案内せられたり同會の記者太田覺眠氏は余を延いて演說者に最も近き傍聽席を與へられき先づ會場を見渡せば來會者は凡そ三四百名席中數名の婦人を見受けたり女子部の委員にてもありつらんか當日開會の次第を聞くに會員の席定まるや幹事丸山正彦氏には開會の趣意を述べ顧問濱尾新氏には會長に代り一場の挨拶を述べられ岩崎少佐には新任の川村副會長、銀林常務委員長を紹介披露し久保田讓氏には會員一同に代り其祝辭を述べ是にて式を終り少佐立花小太郎氏には歐

米體育の狀況を演述せられたり余の參場せし時は今や少佐の演説酣なる頃にして歐米婦人の體育に熱心なる其體力の豊富なることを演述せらるゝ最中なりき今中途より傍聽して耳朶に存するものを記さんに氏が墺國滯留中某將官の家族より山遊の誘引を受けたることありき但し此一行には夫人令孃を始め一家擧りて出發せらるゝことなるが當日は打恐しく雨天なりしかば其出發も如何あらんかと思ひの外同家の者共は氏の來り會するを今や遲しと待ち受けて雨中をも厭はず數里の歩行をなして山阪を攀ぢ登る夫人令孃などの勇氣は實に感ずるの外なかりきといふ其後魚を漁する事の誘引を受けたるが此日も同じく雨天なりしが何れも其愉快活潑なる迚も本邦婦人の豫想する處にあらずと云ふ而して一般國民の體育を重んずること極めて深く日曜日の如きは老幼男女の差別なく皆公園に出でゝ運動せざるものなし其婦人の歩行迚も何れも活潑にして貴人程日本の所謂肩で風を切ると云ふべき有樣なり氏は某集會に招かれたる時會合せる婦人の曰く日本婦人の歩行は如何にも小股にチヨコ〱として首を垂れ脊を屈げて歩行することの不思議さよと其歩み方の眞似を爲せしが實際可笑くもあり又憤慨に堪へざりしといふ歐洲婦人の遊戲は其國々により多少の差異はあれども墺國にては「テニス」（木製の大なる球五六個を六七間を隔てゝ目標に擲つの遊）は尤も盛にして大なる球をかよわき婦人の汗水流して行ふ事は實に勇々敷美事なりしといふ又田舍廻りを爲したる際に氣付きたるは寺院と體操塲とは相離れざるものにて村々には夫々に組合を立てゝ一團をなし寺院に來り禮拜をなしたる後皆體育を熱心に行ふといふ殊に英國人の體育に力を盡すことは著るしきものにて海山の漁獵を始め男女とも競馬若くは旅行等を非常に好み　苟も紳

士と稱せらるゝものは卒先奬勵せざるものなし然らざれば爲に交際社會より擯斥せらるゝ有樣なりと近き頃「キユベ」と西班牙との戰爭に關し英國の少尉は豫言して曰く西班牙は敗北を取るに相違なからん如何となれば西班牙は近來體育の事を怠ると此語や極めて些事に屬すと雖ども豫言は果して的中せしが誠に至言と言つべきなり歐洲新紙の記する所に據れば日本は軍隊の編制も整ひ且勇氣にも富めるを以て一と度ひ戰勝を博するも五度十度持久の戰爭に至りては其體力の持續すべきや否やは疑はし云々此語たる日本人の尤も深く警戒すべき事實なりとて日本人と朝鮮人の膂力を比較し又實例を日淸戰爭に取り我が人夫の彼の人夫に及ばずして如何にも意氣地なきを慨して戰爭當時兵食運搬の困難なりし模樣を述べ延いて近時我國に於ける徴兵檢査の結果宜しからざることより其根本たる婦人體育の有樣は今日の如く只家内に引き籠り少しも戸外の運動を取ることなきは誠に欠點と云ふべし日曜などには宜しく郊外なり公園なりに往き運動を圖るべしとて古來日本に於ては山川の漁獵、打球、遠足、遠乘、擊劍等の何れも流行せるに拘はらず今日に於ては此等體育の事は全く退歩し此勢を以て進まば遂に羸弱なる國民を以て充たさるゝに至らん故に之れが救治策として恢復するの方法を講ぜざるべからず貴人殊に婦人は猥りに乘車すること多しと云へども外國に於ては皇族の如き



貴人すら街道を徒歩逍遙せらるゝことを屢々目擊せり軍團長師團長の如きも大概は乘馬若くは乘車することなく日々徒歩にて通勤せらるゝといふ氏は終に臨み一言して曰く國家の元氣は國民の健全如何にあり國民健全の如何は體育の盛衰如何に關す

べきを以て目下の急務とする所は一般國民の體育を奬勵せざるべからず然らば請ふ槐より始めよの格言に因み本會々員は卒先躬行して其模範を示されん事を希望す云々と述べられ降壇せられたり暫時休憩來會者各自に用意の折詰を配與し日本酒ビール等を饗せられ其酣なるに當り川村副會長の挨拶あり同副會長、同委員長、體育會の萬歲を三呼し散會せしは七時半頃なりき

因に記す今回同會に於て端艇を新造せりとの事なるが當日女子部委員に於て命名したるは朝日、望月、不知火、清水、常盤木、黄金、興土の七艘にして其進水式は來る二十二日頃に施行すべしといふ

●傳染病發生の時期

傳染病發生の最も多き月を最近十年間の統計によりて調査するに虎列剌病は八九十の三ヶ月赤痢は七八九の三ヶ月腸窒扶斯は八九十の三ヶ月痘瘡は一二三の三ヶ月實布垤里亞は三四五十二の四ヶ月に最も多く發疹窒扶斯と猩紅熱との二病に至りては發生數僅少なるをもつて統計の料に資し難しといふ

尙東京府下に於ける去三十年間の傳染病患者總數は一万七千百四十二人にして死亡は五千三百〇一人なり其內譯は左の如し

虎列剌百十四人　赤痢六千九百二十一人　腸窒扶斯千五百六十一人　痘瘡六千百六十人　發疹窒扶斯三人　猩紅熱　三十七人　實布垤里亞二千三百四十五人

●ラムネ酢及醬油の赤痢、コレラ、腸チフスの殺菌力

大阪府の檢疫官なる天見民惠氏は大阪府の依托に應じてラムネ酢及醬油の赤痢、コレラ腸チフスの三菌に對する殺菌力に就て撿索せられたる結果は左の如しといふ

（一）赤痢菌と「ラムネ」　其試驗成績によれば「ラムネ」の赤痢菌に對する殺菌力は非常に微弱にして六時間を經るも全く殺菌せられず其遂に滅殺せられたるは十二時間の後にありしといふ

（二）赤痢菌と酢　其試驗成績によれば酢の赤痢菌に對する殺菌力は頗る鋭敏にして五十%にては十五分時間に殺菌し純粹の酢にありては一分時間にして既に殺菌せらるゝを見しといふ



（三）赤痢菌と醬油　其成績によれば醬油の赤痢菌に對する殺菌力は殆んど之れなしと稱するも過言にあらず何となれば七十二時間の長時間純醬油中に置くも尚滅殺し盡す能はざりしといふ

（四）コレラ菌と「ラムネ」　此成績に因れば「ラムネ」は「コレラ」菌を三十分時にして滅殺し盡すことを得しといふ

（五）「コレラ」菌と酢　此成績は酢のコレラ菌に對すの殺菌力は非常に鋭敏にして九%にては一時間にして滅殺し六十一%にては一分以内に滅殺するを見しといふ

（六）「コレラ」菌と醬油　此成績は醬油は「コレラ」菌に對し幾分か殺菌力を有するが如きも素より其力非常に微弱にして純醬油中にても二時間を經るにあらされば滅殺する能はず

（七）腸「チフス」菌と「ラムネ」　此成績は「ラムネ」の腸チフス菌に對する殺菌力は微弱にして十二時間後にあらざれば滅殺する能はず

（八）腸「チフス」菌と酢　此成績によれば酢の腸「チフス」菌に對する殺菌力は頗る鋭敏にして五十%にては十五分時間にして殺菌し純粹の酢にありては一分時間にして既に殺菌せらるゝを見る

(九)腸「チフス」菌と醬油　此成績は醬油の殺菌力は非常に微弱にして純醬油中にても腸「チフス」菌を七十二時間以內に滅殺すること能はず吾人が酢若くは醬油等を用ゐるには實際種々嗜好品を混和し或は他の液躰を以て稀釋する等複雜なる調理法を用ゐるが故に此成績を以て直に其狀態を推知し難しといへども大畧は是等の物品が三菌に對する殺菌力を推知することを得べしといふ

●八万の赤痢患者

內務省衛生局の調査に據れば本年初發以來一昨日迄に發生せる全國各府縣に於ける赤痢患者概數は七万六千六百四十人、內死亡一万五千五百五十七人の多きに達し就中昨今猖獗を極むるは

新潟縣	一万千四百八十五人	岩手縣	七千八百五十二人
福島縣	七千六百二十六人	長崎縣	四千三百九十五人
山梨縣	三千百六十九人	青森縣	三千百三十九人
神奈川縣	二千五百四十七人	群馬縣	二千九百六十三人
靜岡縣	二千百三十七人	東京府	二千〇五十四人

の一府八縣下にして其他の府縣の多きは二千人未滿、少くも百人以上なるを以て此際隱蔽せる同患者等迄も調査せば現患者或は八万以上ならんと云

●菓子の分析撿查

近來菓子製造業者中不正の行爲を企て藥品を利用して菓子の膨脹を圖り或は數日經過せし賣れ殘り品を店頭に陳列して販賣するものあるを以て警視廳第三部にては今般之が取締として時々吏員及び技手を派遣し嚴しく制裁を加ふる筈なりと云ふ

●京都看護婦學校

前號雜誌に日本看護婦養成の沿革を記載せしが京都看護婦學校の事を書き漏らせしをもて玆に其梗概を記すことゝなしぬ本誌の卷首に挿入せる網版は即ち同所の校舍にして同校の公然學校として政府の許可を得たるは去る明治十八年にありて其特別なる建設

も又十九年九月にあり爾來今日に至るも永續して年々十名内外の卒業生を出し已に百數十名の卒業生もありて内務省衛生局より各府縣へ出張すべき看護婦講師の如きも又同校より派出を命ぜらるゝといふ十數年來看護婦學校として特種の建築を有し規模秩序共に整然たるは蓋し本邦唯一なるべし此他同校に於て出版せる普通看病學及實用看護法（何れもドクトル佐伯理一郎氏著述）の如き世間に販賣せられたるもの六千部以上に達せりと云へば同校の看護婦養成上に盡したる其効績は蓋し僅少ならざるべし同校は同志社新島襄氏がドクトルベリー及ミスリチヤード兩氏と謀り内外人士の協贊に依り創設したるものにして新島氏逝去の後は專らドクトル佐伯理一郎氏其衝に當られ今尚同校長として看護婦養成を圖らるゝといふ

◎飲食物取締　第十四議會に提出する飲食物取締規則は五六條なるも其通過の後には此細則を設くる筈にて飲食物中最も需用多き酒、醤油、鳥獸肉、雞卵等に對して夫々取締方を規定せらるべしといふ

◎東京腦病院　上野山下に設立せる同院は去十六日朝野の紳士新聞記者等を招待して盛んなる開院式を擧げたりしが同院は是迄巣鴨病院の囑托醫たる後藤省吾氏の主宰する所にして專ら精神病者の治療を司るものなるよし

◎淺草區内の猩紅熱　去十五日同馬道一丁目小川てる猩紅熱に罹り激烈病なるを以て其筋にては傳染病同様の取扱ひをなせしといふ

◎腸窒扶斯流行の兆　同患者は郡市にて日々一二名位ありしが季候變遷に連れ昨今漸く流行の兆ありといふ



◎香港の黒死病　同所に於ける同患者は最近一周間に於ける患者四十三名死亡十二名にして初發以來の患者合計は千四百三十名死亡千三百六十九名にて時今大に衰退せりといふ之に反して牛莊にては頗りに流行の由にて本邦にても船舶の檢疫を施行するに至りたり

◎精神病看護法案　内務省衛生局より第十四議會に提出すべき精神病看護法案は近日中央衛生會の議に上るべしといふ

◎ペスト視察員　過般來牛莊地方に於てペスト病盛に流行するを以て今回野田保健課長早味横濱海港檢疫委員の兩氏を實地其狀況を

視察せしむる筈にて去十二日既に出發せりといふ

◉慈惠病院の近況　目下同院の患者は四十餘名にして内婦人十八名其病症の重なるものは骨の結核、梅毒症にして久しく治療を受け居るものは腰部脊髓骨を病めるものにして最近の大手術は腹部纖維症患者の腹部を凡そ十三サンチ許り切開したるものなりしといふ同症は其後も經過もよく最早退院せりといふ

◉醫術開業試檢　去二日永樂町醫術開業試檢場に於て齒科に係る試檢を行ひたるが受驗者は午前百〇一人午後は百人なりしといふ後期學說及び實地に及第せしもの第一組にて二十九人あり又第二組には二十七人ありて何れも及第證書を授與せりと云ふ

◉臨時海港檢疫地　去十二日より淸國牛莊より來る船舶に對し臨時檢疫を行ふへき諸港を左の如く指定したりと云ふ

長崎縣　嚴原港　三重縣　四日市港　愛知縣　武豐港

◉コレラ　涼しくなりしさて俗に云ふ秋濕きにて餘りつめ込むはよろしからす府下及橫濵等にもチラホラ同病の發生ありたり

近事談片

◉平和會議と病院船　萬國平和を永久に持續せんとの露帝の發議は慥かに近代の一大擧にして何れの國何れの團躰も之を贊せざるものなきは勿論なるが但し其條件の如何によりては會議の模樣固より困難なるべしと豫て想像せしに違はず平和會議の過半は先づグス〱に終りしが其内にて赤十字條約に關するものは成効したるが如し即同會は病院船及患者運搬船に向つては砲擊は勿論他の手段を以て危害を加へざること並に捕拿せざることに決したりとのことなるが我國の提議も又之れと同樣の事を申出したりとの事但し此等の條約は改めて締結せざるも當然の事なるべきに左りとは戰鬪力なき患者も是迄は軍中に於ては危險のことなりしか嗚呼赤十字條約は如何にすべきや

◉生產と死亡　去る三十年間に於ける生產數は五万四百三十一人にして死亡數は四万五千九百七十五人なり然らば同年度内に人間の增加すること四千四百五十六人なり故に一ヶ月平均生產數は死亡數に超ゆること三十七人餘なり

●不老不死の術　米國の醫師ロバーツ氏は生活細胞の研究中偶然のことより山羊の血精を注射して老衰せるものを再び若やかしむる法を工夫せりといふ氏の説によれば元來の老衰するは骨及血管に一種の沈澱物を生ずる結果なれば新陳代謝の機能を盛にして此沈澱物を洗ひ去れば自ら長命を保つ道理にして此注射を受けて好結果を見たるもの「シカゴ」邊に其人少からずとの事なり果して事効なりや否や



●赤痢と牻の牛兒　本會の賛成員たる赤十字社内科主管岩井禎三氏は牻の牛兒の赤痢病に特効あるを認めし由なるが該草は民間に古くより痢病の妙藥として所によりては「たちまち」草とも稱へ居るものなりと

●中毒の奇病　此程帝國大學第一醫院へ入院したる靜岡縣駿東郡高根村農朽木均二と云へる本年十九歳の少年は學問修業の傍剝製の動物標本を造ることを覺へ山中に分け入りて禽獸虫類を捕へ剝製として樂みけるが去七月中より面部に腫物を生じ追々蔓延して恰も天刑病(ライ病)の如くなり近所の醫師にも判じ兼ね第一醫院に來りしものなるが全く獸虫類の毒に感染したるものにて捨て置くときは天刑病同樣の難症に陷るものにて剝製家にも未だ聞かざる奇病なりと

●帝國神醫會　文明國には慈善貧民院の設多く英國倫敦の如きは二十七個の慈善病院あり本邦にては此等の病院極めて少なき今回甲斐須宜なる人題號の會を設け遍く貧民治療を施す由にて朝野の篤志家にも賛成を求め居るといふ

◉赤痢の未發生地　府下に於ける本年の傳染病は例年より一層減少したるは一に豫防消毒の致す處なるべし數十年來府下各町村に一人の赤痢患者を出さゞる處なきに獨り北多摩郡立川町及南多摩郡鶴川村(戶數千五百餘戶)の如き今日に至る迄數十年間一名の患者を見ざるは近縣に比類なしといふ

◉赤兒の吐糞　麹町區上二番町なる原口某の夫人は此程男兒を分娩せるも其子は出生後更に便通なく頻りに口中より大便を吐き出せしが回生院に於て此手術に着手し人工により作られたる脇腹の下の孔より排泄せしむることゝなし本來の肛門は其用をなさずといふ

◉琉球の俚言　琉球にては馬の夢を見れば自己或は親族死すべく右の肩振ふときは己れ死し左の肩振へば親戚に死人あるべし夢を他人に話せば實なく隱して話さゞれば實となる金を拾ふ夢は不吉なりと

◉頭顱の解剖　水戶市なる波多野濟生病院長は大兇漢坂本慶二郎の頭顱を貰ひ受け解剖の上其腦漿の如何に常人と殊なるかを驗するの價値あるを信じ本人にも圖りたりとのことなるが氏は之を大學に納めて十分に研究せんとの心算なりといふ

◉名古屋市の中毒事件　名古屋市に於ける日本赤十字社愛知支部總會の節其宴會に於て多數の中毒者を出し中々の騷動なりしよしなるが右は不消化物を以て有名なる蕈類を料理に用ゐたるに由りしといふ本年松蕈は特に廉なれば尤も注意すべきことなり

◉腫物より縫針三本　荏原郡駒澤村高橋某の三女阿勢以(二十三)は三年以前より胃痛を感じ諸々に診斷を求めしも何れもまち〳〵なりしが此程乳の下に腫物を生じ痛み堪へ難き爲め近所の醫師に切開

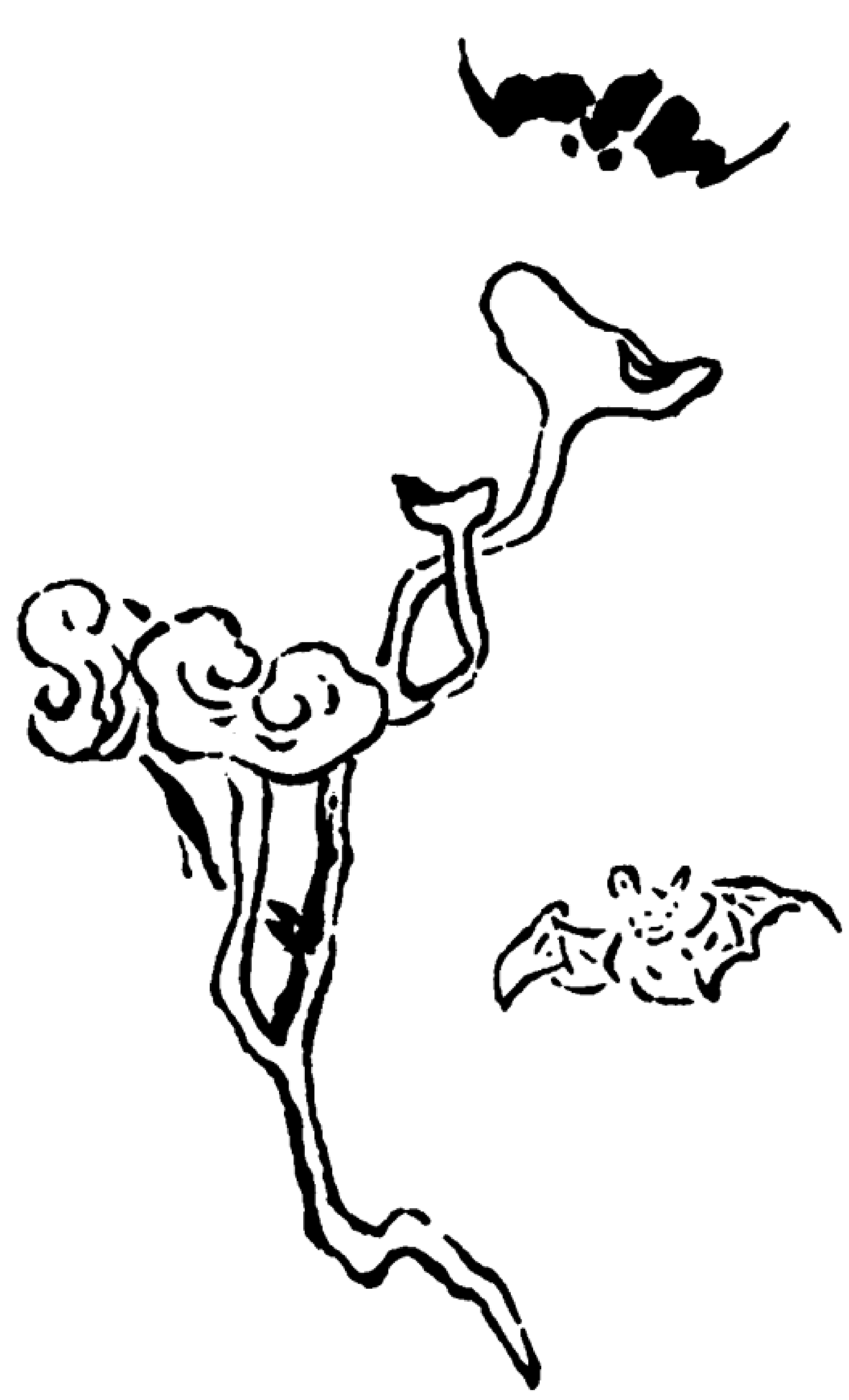
を求めしに不思議にも木綿針都合三本出で宿痾も拭ふが如く癒えしといふ此人常〳〵大の癪持にて是迄度々處かまはず打ち倒れしこともありとの事なれば其際躰中に入りし者か果して眞なるか妙なることもあるものかな

◉牛莊の黒死病　牛莊にては甚しき黒死病流行せるが露國醫員は或る倉庫内に二千の死體隱蔽しあるを發見せしが是等は皆寄留民の死體にて何れも竊かに郷里に運び出さんとする準備なりしと云へば土民の死亡數は其三倍にも及びしなるべく其猖獗なる驚くの外なし

◉死牛の肉中毒　福岡縣仲津郡西犀川中島某の牝牛一頭斃死す隣人廉價を以て此肉を賣りたるが買受けて食したるもの十數人悉く中毒をなし中九名は生命覺束なしと云ふ豈危險ならずや

養生淺說

○石鹸と炭酸曹達　炭酸曹達は脂肪をして乳劑の狀態に變ぜしむる作用少く腐蝕性強くして物品を損傷し易き弊害あるをもて身體衣服等の洗垢用には石鹸の方利益あること勿論なり



○火傷の手當　火傷をしたる時は油類を塗布するをよしとす阿列布油石灰水等分のものを綿若しくは「モンパ」等を浸して貼付し輕ろく繃帶すべし此等の藥品なきときは「ヘット」即ち豚の脂、亞麻仁油、牛酪、止むを得ざれば婦人常用の水油にてもよし

創面の水泡に化したるものは破るべからず若し破れたるときは不潔物のかゝらぬ樣になし阿列布油を塗り百倍の硼酸水又は三百倍の「ザルチン酸水」にて洗ひ後硼酸軟膏を貼るもよし成るべくは阿列布油尤も可とす患者の渇を訴ふるものは氷又は興奮性の飲料を與ふるをよしとす

○白なまず　白なまずには患部を成るべく刺戟せざる樣になし石鹼を以て洗ふことを癈すべし然らざれば爲めに多く蔓延せしむることあるべし輕軟膏尤も宜しとす

○鹽水温浴　其効用は皮膚を强固になし腸胃の疾ひ腦の充血等に効あるものなり

○疥癬療法　疥癬には硫黄百匁炭酸曹達百匁芒硝百匁を水五六斗の中に混じ温湯にわかし一日に凡そ三四回宛も入浴すべしよく治すべし

大日本婦人衛生會記事

◎第七十九次例會　十月七日午后一時より牛込區北町愛日小學校に於て例會を開く當日は朝來の雨天なりしが役員には濱尾副會長幹事高木鐐子松平芳子の三氏出席せられ會員傍聽員等を合せて百五十餘名の出席あり席定るや醫學博士大澤謙二君小澤卯之助君兩氏の演説あり右終りて愛日校女生徒の薙刀躰操演習ありしが、午后三時頃よりは天候不穩の兆を顯はし遂に暴風雨に變じ塀を倒し樹木を折り其勢ひいと猛烈なりしが幸ひ暫時にして靜穩に歸せしを以て會員の歸路は誠に好都合なりき餘白なきを以て其景況の詳細を略す

廣告

大日本婦人衛生會々報

◉本會の會費請取證は次回より凡縦三寸横四寸花形の輪郭ある淡紅色小形の請取證を用ゐることゝし領收證印は「大和古字」にて「大日本婦人衛生會々計係印」の十二字を彫刻したるものを用ゐ其大さは凡そ五分平方の者に候此段御了承有之度候也

◉本誌配達は毎度遅延相成恐縮に候毎月十五日發行には相違なきも多數の事故印刷等も時日を要し本月の如きも多少相遅れ候へ共今後は可成編輯印刷も迅速に了へ發行を急ぎ可申幸に諒察せられんことを請ふ

◉左の會員諸氏は九月以降本會の爲め左の如く會員の種類を變更せられたり

特別會員　舊通常會員　羽田三緒子
特別會員　仝　長谷川てう子
特別會員　仝男爵夫人　西　靜子
特別會員　仝　緒方悅子
特別會員　仝　馬渡玉子
特別會員　仝磯田改性　安達かつ子



本會入會者報告（九月中）

○事務所申込
●熊本縣立病院内　學生　秀島はつ子
○會員秀島はつ子紹介
●熊本縣立病院内　學生　藤田かく子
●熊本縣立病院内　學生　奥村政子
●熊本縣立病院内　學生　中島うの子
●熊本縣立病院内　學生　後藤まさ子
●熊本縣立病院内　學生　松田ふため子
○會員岩田はる子紹介
●淺草區山ノ宿町五十三番地　學生　岩田よね子

○會員山田登㠯子紹介
●日本橋區龜島町一ノ二十一　學生　太田雪子

○會員加藤つき子紹介
●日本赤十字社病院內　學生　南大路まつ子
●三重縣津市西裏　學生　本間いし子

○會長仁禮壽賀子紹介
●赤坂區丹後町一　通常會員　小濱るい子

○幹事高木鐐子紹介
●牛込區納戸町十四　通常會員　石栗とせ子
●小石川區金富町四十　通常會員　三浦ふみ子

○幹事鳩山春子紹介
●麴町區永田町二丁目　特別會員　下田歌子

○事務所申込
●帝國大學第一醫院　學生　堀部喜與子

○會員川村もと子紹介
●三重縣津市赤十字社支部養成所　學生　原たけ子
●仝所　學生　山中たか子

○事務所石川千代子紹介（十月以降入會）
●麴町區中六番町ノ六　特別會員　島地八千世子
●芝區愛宕町二ノ十四辛川方　學生　婦士まつ子

○會員太田ゑみ子紹介
●函館區相生町百二　通常會員　川瀨せん子

○會員畑谷よね子紹介
●府下荏原郡大森吉田病院內　通常會員　高橋逸子

○會員山田登㠯子紹介
●京橋區西紺屋町八山本方　學生　石黒咲子

○會員常世千代子紹介
●山形縣西村山郡寒河江村　通常會員　國井榮江子

○會員双木せう子紹介
●帝國大學第一醫院　學生　橋本秀子
●帝國大學第一醫院　學生　丸尾松枝子
●帝國大學第一醫院　學生　高橋琴枝子

○會員矢部ふさ子紹介
●本郷西片町十八ノ七號　通常會員　町野こま子

○會員根岸かな子紹介
●下谷區茅町二ノ四　通常會員　廣川うた子

○會員栗田褔子紹介
●本所區若宮町二百十石井方　通常會員　品川い志子

○秀島はつ子紹介
●熊本縣立病院　學生　金澤かね子

○小澤通君紹介
●下谷區谷中三崎町五十　通常會員　角尾はる子
●牛込區天神町四番地吉田方　通常會員　安藤みき子

◎會員和田愛子紹介
●牛込區市谷藥王寺前町八十三　學生　根村鏡子
●牛込區辨天町百六十　學生　兒玉ちよ子
●牛込區原町三ノ六十一　學生　眞田村子

○藤田重之助君紹介
●赤坂區氷川町十八番地　通常會員　鳥具ろく子

●牛込區若松町百三十二　學生　戸川信子

○會員河合きん子紹介

●麹町區下六番町十三　通常會員　市村三保子

○會員滕春子紹介

●京橋區長崎町二丁目八番地　開すゞ子

新潟支會ヽ申込（九月中）

○會員中野悦子紹介

●新潟市上旭町一番町　通常會員　羽田ちか子

●仝　學校町二番町　通常會員　及川千代子

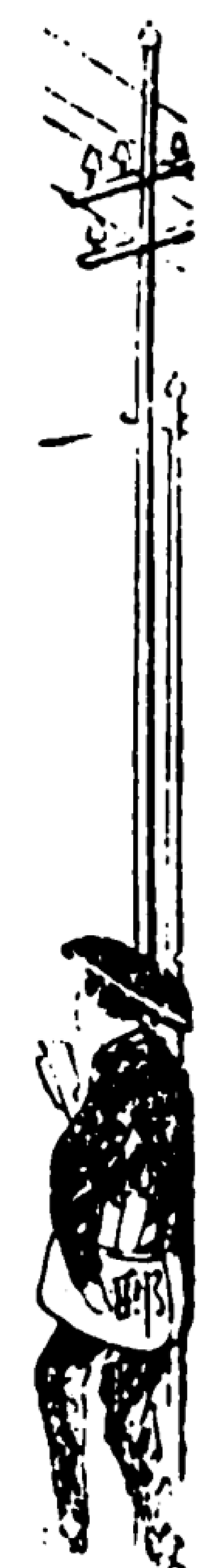
●仝　寄居町　通常會員　梅木しづ子

●新潟市上旭町一番町　通常會員　稻津しん子

●仝　下旭町　特別會員　稻津きく子

●仝　古町五番町　通常會員　樋口つや子

●仝所　通常會員　吉井さく子



轉居

●麻布區市兵衛町二ノ八十四へ　小倉すゑ子

●京都市上京區出水町通烏丸西へ入中出水町五番地へ　鵜田梅子

●小石川區原町百三十九（新潟支會より轉す）　磯邊よし子

●神戸市中山手通二ノ三十五へ　三田朝子

●神田區錦町三ノ四小原方　岡田秀子

●岡山縣都宇郡茶屋町大字早島新田六十六へ　山川春二君

●岐阜市今泉西司町へ　河村孝子

●荏原郡大崎村字大崎三百六島田控邸　服部繁子

●下谷區池ノ端茅町二ノ八へ　犬養嘉津子

●千葉縣東葛飾郡野田村大字上花輪へ　北澤改性　大塚きく子

●新潟縣頸城郡高田村字馬場先へ　北澤信子

●赤坂區南町六ノ三十へ　德富靜子

●京橋區尾張町一ノ一へ　馬瀬たま子

●大坂市南區空堀筋北桃谷町東へ入北側　植村妙子

●神田區三崎町三丁目四中通へ　宮澤いく子

●麻布區笄町百五十一へ　兒島悦子

●本郷區丸山新町三十一へ　唐非つな子

●本郷區眞砂町三十七へ　越智露子

●下谷區中根岸町七十二へ　原田改性　佐藤芬生子

●長野市神明町村田屋内へ　兒玉さく子

弔詞

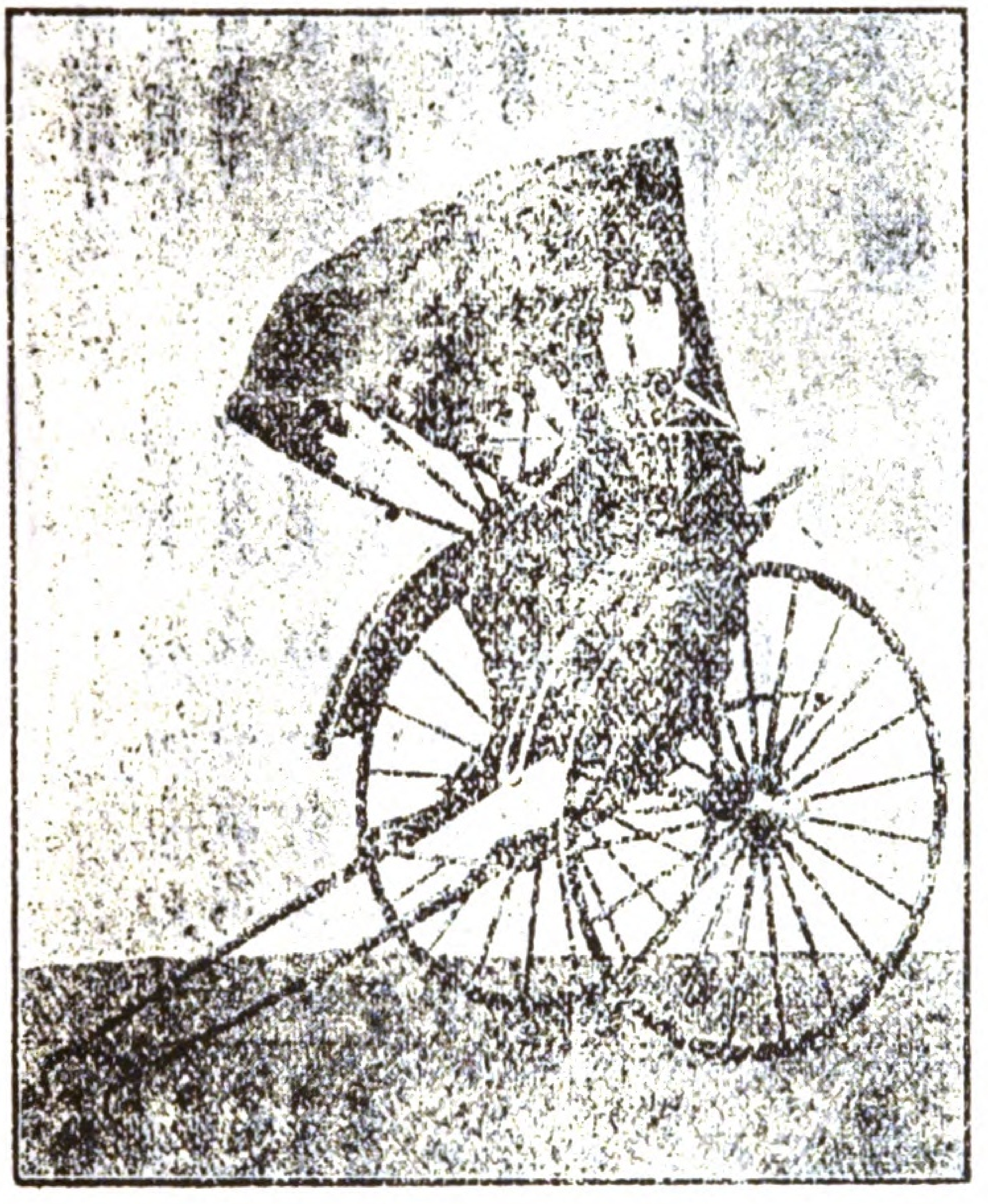
◎本會の通常會員松本荻江子には今回永逝せらる
本會は

謹んで哀悼の意を表す

農商務省貿易品陳列館及び上野公園
商品陳列館に上等人力車出品有之候

保險附人力車大販賣廣告

弊店儀從來人力車製造販賣罷在候處大方諸彦の御引立を蒙り日に增し盛大に相成候段辱奉深謝候弊店製造の人力車は車躰構造の堅牢なること形狀の格好よきこと殊に車の出方至て輕くして輓子の勞力を省き且皆樣方のお乘好きこと等は已に世人の定論も有之候猶今後益々大勉强を以て製造販賣仕候間何卒陸續御用被仰付度伏て奉希候謹言



漆細工は本邦特有の技術に有之候へば益々改良進歩の道を謀り益々邦人の技能を發揮せさるへからざることに御座候然るに當業者多くは目前の利を計り粗造品を製出致し候ため終に内外人の不信を來し我が特技たる斯業も今や振らざるに至り候は實に慨嘆の至りに堪えず候小生大に感ずる所有之乍不及徐々挽回の策を講ぜんことを自任仕り以後器物其他塗物一式極堅牢に仕揚げ御注文に可應候間御用向の節は何品に不係御一報被成下候はゝ早速參堂可仕候頓首

東京本郷春木町二丁目九十六番地

保險附人力車製造販賣店

伊東竹三郎